

第2回市町村建設計画策定委員会会議録

日 時 平成15年8月25日（月）
午後2時から
場 所 富山国際会議場2階
多目的会議室

【会議概要】

○委員長あいさつ

○議 案

- ・富山地域の将来のまちづくりに関する住民アンケート調査結果
- ・新市建設計画素案（序論～新市の建設の基本方針）

【出席委員】

氏 名	役 職 名	備 考
森 雅 志	富 山 市 長	第1号委員
中 斉 忠 雄	大 沢 野 町 長	〃
清 水 忠 夫	大 山 町 長	〃
大 島 外 夫	婦 中 町 長	〃
野 尻 昭 一	細 入 村 長	〃
島 田 祐 三	富 山 市 議 会 議 長	第3号委員
石 坂 孝 夫	大沢野町議会議員	〃
畔 田 武 雄	大山町議会議員	〃
本 多 哲 三	八尾町議会議員	〃
柞 山 数 男	婦中町議会議員	〃
村 上 伸 治	山田村議会議員	〃
堀 勇 一	細入村議会議員	〃
宮 口 侗 廸 とし みち	早稲田大学教授・富山県都市計画区域マスタープラン 検討委員会委員長	第6号委員 (学識経験者・共通委員)
高 沢 規 子	富山県商工会議所女性会連合会会長	〃
林 不二男	社団法人富山青年会議所理事長	〃

欠席委員：2人

【傍 聴】

報道関係者 7社（10人） 一般（9人）

事務局

ただいまから第2回富山地域合併協議会市町村建設計画策定委員会を開催させていただきます。本日の議題につきましては、1つには先に実施いたしました住民アンケートの調査結果につきましての報告と、2つ目といたしましては、新市建設計画のうち、序論から基本方針までの素案についてご協議をいただきたいと思います。それでは宮口委員長から簡単にご挨拶をいただき、引き続き議事に入らせていただきますので、委員長よりよろしくお願いをいたします。

宮口委員長

どうもみなさんご苦労様です。早稲田大学の宮口でございます。策定委員会の委員長をおおせつかっておりますが、そろそろ議論も本質的なものが増えてまいります。新しい市というものの、創造的な育成といえますか、スタートといえますか、そういうことに向けて本音を語りながら議論をしていただきたいと。もちろんお互いに学びながら、新しい本音が生まれるというようなことも是非あればいいと思っております。そういう訳で、今日も闊達な議論をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それではこれから座って議事を進行させていただきます。議事の1番には富山地域の将来のまちづくりに関する住民アンケート調査結果についてというのがございます。その結果につきまして、事務局から説明をお願いして、後、質疑応答ということでやりたいと思います。それでは事務局よろしくどうぞ。

事務局

それでは説明に入ります前に、1枚のA4判をお配りしておりますが、目次のところで、頁がかなり違っておまして、差し替えをお願いしたいと思います。

それではまずアンケート結果につきましては、7月31日の第4回協議会におきまして中間報告をさせていただきました。今回、全体の最終報告をさせていただくものでございます。それではお配りしました目次の方をご覧いただきたいと思います。目次は、1頁からアンケートの実施目的、2. 実施方法、3が設問構成、4番目に実施時期、そして5番目に今度あらたにアンケート調査結果の概要ということで、概要版を5番目に入れさせていただいております。それから6番からそれぞれ問1から問9までの結果につきまして載せております。その中で問5から問9まで、①②③ということで付けておりますが、①が地域全体での結果、②は市町村別、各市町村の報告、そして③には、今回新しく、年齢階層別ということで付けておまして、その形は問9まで同じような形でさせていただいております。なお、②の市町村別でございますが、中間報告より若干詳しい分析、ならびにグラフ・表で分かりやすく説明をしております。それから7の自由回答集計結果でございますが、これも新たに付けておまして、問10の自慢できるもの特色など、それから問11の自由意見、これらにつきまして統計的に付けております。それと参考資料として調査書の様式等についても載せております。

1頁目をご覧いただきたいと思います。2番目の(2)でございます。サンプル数・回収率でございますが、最終的に発送6000通のうち、回収が2,443通、回収率が40.7%でございます。前回よりも34通、回収率で0.5ポイント増えております。それから(4)の標本誤差につきまして説明をさせていただきます。標本誤差は回答者数によって誤差がそれぞれ下の表のようになっておまして、それと同じく回答の比率10%から50%までふってございますが、一つの問いに答えられた方が、わずか10%または大多数の90%答えられた場合に、例えば2500の回答者数の場合、±1.2の誤差がございますし、大多数を答えられた50%の方につきましては、±2%ということで、沢山の方が「誤差が大きい」という様に見ていただきたいと思います。今回は2,443人の刻みはございませんので、2,000～2,500ということで、2つの表をみていただきますと、50%の2,000のところでは±2.2で、これが最大の誤差ということになっておまして、これは統計学的に見た場合、95%は信頼できる誤差の範囲ということで、その内輪に入っているということでございます。

2頁目でございます。5番目のアンケート調査結果の概要ということで2・3・4頁の3頁にわたって説明をしております。なお、この概要につきましては、新市建設計画の素案にもこの同じ概要にグラフを付けて説明をしておるところでございます。この説明に入ります前に5頁目をご覧いただきたいと思います。ここからアンケート調査結果に入る訳ですが、今回その結果の見方ということで5点ほど載せております。1番目はパーセントの表示でございまして、小数点第2位を四捨五入してございます。それから2番目に、図

表中に「2つ選択」「3つ選択」等と記してありますが、1つの質問に対して2つ以上の回答を求めた場合ということでございまして、回答数の合計を回答者数で割った比率でありまして、全部合計しますと100%を超えるということでございます。もう一度申し上げますと、回答者数のうちのどれだけの方がおられたかということで載せております。それから(3)に「無記入」とありますのは、回答をしなかった人のパーセントであります。それと(4)でございます。満足度でございますが、ちょっと9頁の方をご覧頂きたいと思いますが、9頁に生活環境評価ということで、左から、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「無記入」と書いてございます。(4)で申し上げておりますのは、満足度という言葉につきまして文中でてまいります場合は、一番左の「満足」とその次の「やや満足」を足した合計ということでございます。それから不満度という言葉も出てまいります。これは選択肢の「やや不満」と「不満」を足したものでございます。

2頁に戻りまして、“問 住んでいる地域の生活環境の評価”というところを説明させていただきます。地域全体ということでございますが、全体では、「満足」から「不満」の5段階でたずねましたところ、満足度の評価では「緑や水など自然環境の保護」が最も多く、次いで「ゴミ収集、し尿処理、リサイクルなど生活環境への取組み」、3番目には「住宅水準、住環境水準」の順に評価が高くなっております。一方、不満度が最も高いのは「道路の整備状況・バス・鉄道など交通の便」でありまして、次いで「買い物や娯楽施設の状況」「まちの活気」の順となっております。

続きまして市町村別でございますが、地域全体の満足度と比べますと、富山市と婦中町では他町村に比べ「緑や水など自然環境の保護」、そして「ゴミ収集、し尿処理、リサイクルなど生活環境への取組み」などへの評価が低くなっております。そして地域全体の不満度の高い「道路の整備状況・バス・鉄道など交通の便」につきましては、特に、山田村と大山町におきまして「不満」との回答が多くなっております。

年齢階層別でございます。地域全体の満足度の評価を比べると、30代において「ゴミ収集、し尿処理、リサイクルなど生活環境への取組み」などの評価が低くなっております。また、「道路の整備状況・バス・鉄道など交通の便」につきましては、年齢階層が低くなるほど不満度が高くなっております。以下、3頁目から、“今後のまちづくりに望むこと”、“改善してほしいこと”、そして、“新市の将来像イメージ”、4頁の“新市への期待”、“新市への不満”につきましては、この後でてまいりますので、ここではちょっと割愛をさせていただきます。

6頁をお願いいたします。問1につきましては、“回答者の性別”でございます。前回より34名増えておりますが、以上のようになっております。問2には“回答者の年齢”でございます。それぞれの階層別に回答者割合が載っております。回答者数と全体に対する割合が載っております。そこで前回にもご質問をいただきましたが、回収率につきまして、口頭で述べさせていただきます。「29歳以下」が27.18%、「30～39歳」が34.59%、「40～49歳」が37.07%、「50～59歳」が44%、「60～69歳」が50.78%、「70歳以上」が48.50%でございます。一番多かったのは60代でございます。約半数でございます。また70歳以上も半数近く、そして一番少ないところが29歳以下で27%ということで、60歳以上の半分ほどでございますが、その差が回答者数並びに率に反映したということでございまして、もともとは、だいたい1000通ぐらいの、多少ばらつきはありますが、だいたいそれに並んでいたわけでございますが、回答率ということでこのようになったわけでございます。

それから7頁、“問3 回答者の職業”につきましては、ご覧の通りでございます。“問4の回答者の居住市町村”でございますが、各市町村別に載せておりまして、率でございますが、ここでは一つひとつではなくて、平均では40%強でございますが、一番多かったのが山田村さんの48.03%、少なかったのが富山市の36.33%。そんなに多くということでもございせんし、極端に低かったということではございませんが、全体的には少なかったということでございます。

8頁に入ります。“問5 居住市町村の現状に対する満足度”でございますが、これは先ほど概要で述べましたことと、ほとんど一緒でございます。8頁目ではグラフの方で見ていただくことになっておりますし、9頁の方では表ということで載せております。

続きまして10頁で“市町村別にみた生活環境評価”ということでございまして、これをご説明する前に、11頁目からご覧いただきたいと思いますが、まず「健康政策や病院などの医療に関するサービス」につきましては、八尾町、富山市の順に満足度が高くなっておりまして、反対に細入村、大山町の順に不満度が高くなっております。これもグラフと表で載せていまして、それ以降、次のまん中辺の○が「高齢者・障害者・

児童などの福祉に関する施設やサービス」のところでございますし、次の12頁から順に、「道路の整備状況・バス・鉄道などの交通の便」、「犯罪の防止、交通安全、防災施設など生活の安全」。13頁では「ゴミ収集、し尿処理、リサイクルなど生活環境への取組み」、「緑や水など自然環境の保護」、そして14頁では「住宅水準、住環境水準」、「買物や娯楽施設の状況」、そして15頁では「スポーツ施設の状況、利用しやすさ」「芸術・文化施設の状況、利用しやすさ」、16頁では「学校など教育使節や教育体制」、「地域コミュニティ施設の状況、利用しやすさ」、最後に17頁「まちの活気」ということで、それぞれ市町村別に載せております。そこでそのまとめ、概要ということでございますが、ちょっとここは読み上げさせていただきます。

10頁でございます。富山市では他町村に比べ「健康政策や病院などの医療に関するサービス」、「買物や娯楽施設の状況」について満足度が高くなっております。また、他町村に比べ不満度が高いのものは「犯罪の防止、交通安全、防災施設など生活の安全」、「住宅水準、住環境水準」、「地域コミュニティ施設の状況、利用しやすさ」などが高くなっております。大沢野町につきましては他市町村に比べ「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」について満足度が高くなっています。大山町につきましては他市町村に比べ「緑や水など自然環境の保護」、2番目に「住宅水準、住環境水準」につきまして満足度が高くなっています。また、他市町村に比べ不満度が高いものにつきましては「健康政策や病院などの医療に関するサービス」、2番目に「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、3番目に「買物や娯楽施設の状況」という順に高くなっております。八尾町では他市町村に比べ「健康政策や病院などの医療に関するサービス」、「芸術・文化施設の状況、利用のしやすさ」、「地域コミュニティ施設の状況、利用しやすさ」について満足度が高くなっております。婦中町につきましては他市町村に比べ「買物や娯楽施設の状況」、「芸術・文化施設の状況、利用のしやすさ」については満足度が高くなっています。また、不満度が高いというところでは「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、次いで「犯罪の防止、交通安全、防災施設など生活の安全」などが高くなっております。山田村につきましては他市町村に比べ「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、次いで「犯罪の防止、交通安全、防災施設など生活の安全」、3番目に「ゴミ収集、し尿処理、リサイクルなど生活環境への取組み」、そして4番目に「緑や水など自然環境の保護」について満足度が高くなっています。また、不満度が高いということでは「道路の整備状況・バス・鉄道などの交通の便」、そして「買物や娯楽施設の状況」などが高くなっております。細入村では比べまして「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、そして2番目に「犯罪の防止、交通安全、防災施設など生活の安全」、3番目に「ゴミ収集、し尿処理、リサイクルなど生活環境への取組み」、そして「緑や水など自然環境の保護」について満足度が高くなっておりますが、不満度が高いというところでは「買物や娯楽施設の状況」、「スポーツ施設の状況、利用のしやすさ」、3番目に「芸術・文化施設の状況、利用のしやすさ」、4番目に「住宅水準、住環境水準」などが高くなっております。

18頁でございます。“年齢階層別にみた生活環境評価”ということでございます。これも項目は先ほどの順の通りでございます。「健康政策や病院などの医療に関するサービス」につきましては、50代以上は年齢階層が高くなるほど満足度も高くなっております。また70歳以上の満足度が最も高く、反対に30代、40代の満足度が低くなっております。また、「不満」との回答は、年齢階層が低くなるほど多くなっております。あと「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、19頁の「道路の整備状況・バス・鉄道などの交通の便」につきましても、それぞれの年代別ということで、表に載せておりますので、ここでは説明の方を割愛させていただきまして、25頁の“今後のまちづくりに望むこと、改善してほしいこと”の方へはまいります。それでまず表の方でございますが、前回は項目順に分けておりまして、大きい少ないが分かりにくかった訳でございます。今度は回答の多い順に並べております。表の方を見ていただければ順番がよくわかるかと思えます。説明させていただきますが、これは地域全体でございます。“今後のまちづくりに望むこと、改善してほしいこと”は1番目に「雪対策への取組み」が最も多く、「高齢者・障害者・児童の福祉対策」、3番目に「公共交通の利便性の向上（バス、鉄道など）」、そして「保健・医療体制（医療機関の充実、保健師の確保等）」「商工業の振興（商店街の活性化、地場産業の振興、企業誘致等）」の順になっております。また「公共交通の利便性の向上（バス、鉄道など）」につきましては、問5にございました“生活環境の評価”につきましても不満度が高く、“生活環境評価”と今の要望につきましては関連性が強いということでございます。26頁ではその実数とそれぞれの回答のパーセントでございます。

27頁は今度は“市町村別でのまちづくりへの要望、改善要望”ということでございまして、富山市では「高

齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、「公共交通の利便性の向上」、そして「雪対策への取組み」の順となっております。また「防犯対策の推進」が他市町村に比べ最もおおくとなっております。大沢野町でございますが、「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、2番目に「保健・医療体制」、3番目に「商工業の振興」の順になっています。また、「学校教育施設や教育内容の充実」につきまして、要望が他市町村に比べ最も多くなっております。大山町につきましては、「保健・医療体制」、「公共交通の利便性の向上」、「商工業の振興」の順になっておりますが、他市町村と比べて「商工業の振興」に対する要望が最も多くなっております。また、「公園、緑地等の整備」、「観光・レクリエーションの振興」に対する要望が他市町村に比べ最も多くなっております。

28頁でございます。八尾町では、「雪対策への取組み」、「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、「商工業の振興」の順になっております。婦中町でございますが、「高齢者・障害者・児童などの福祉に関する施設やサービス」、「公共交通の利便性の向上」、3番目に「保健・医療体制」の順となっております。また「環境への取組み」、「防犯対策の推進」に対する要望が他市町村に比べ多くなっています。山田村では、「雪対策への取組み」、「道路交通網の整備」、「公共交通の利便性の向上」の順になっており、雪対策も含め交通関係に関する要望が多いことが特徴となっております。「農林水産業の振興」、「地域おこし」に対する要望が他市町村に比べ多くなっております。細入村では、「雪対策への取組み」、「保健・医療体制」、「公共交通の利便性の向上」の順となっております。

30頁では、“年齢階層別でのまちづくりへの要望、改善要望”でございまして、それぞれ表に載っております上位7回答を順に並べておりますので、その順につきましてはご覧のとおり説明となっておりますので、ここでは割愛をさせていただきます。

32頁、“問7 新市の将来像イメージ”でございまして。「地域全体」でございまして。新市の将来像イメージでは「緑豊かな自然や川、海などの環境を大切にするまち」が50.4%で最も多く、次いで「交通事故や災害、犯罪のない安全で安心なまち」、そして「子供・お年寄りなどを大切にする福祉のまち」の順になっております。

それから33頁が、“市町村別にみた新市の将来像イメージ”でございまして、それぞれ市町村別に上位5回答をグラフでみていただけたらということで、説明は割愛させていただきます。

35頁でございます。“年齢階層別にみた新市の将来像イメージ”でございまして、これも20代、30代ごとにそれぞれ上位5回答につきまして、表に同じく載っております。これにつきましても特徴的にはご覧のとおりでございます。

37頁が“問8 富山地域の合併に期待する効果”でございまして。地域全体では、富山地域の合併の効果に対する期待では、「公共料金などの住民負担の低減」が73%が最も多く、次いで「行政組織の合理化や人員削減」、「利用できる窓口・公共施設の増加」、そして「道路・公共施設整備など広域的視点からのまちづくり」の順となっております。これは3つずつ選択ということで、1番目のところがほとんど選ばれたという形になっております。

それから38頁が“市町村別にみた合併の効果に対する期待”ということで、それぞれ富山市から順に載せております。39頁が“年齢階層別にみた合併の効果に対する期待”ということでございまして。

問9が“富山地域の合併に対する不安”でございまして。地域全体としまして、富山地域の合併に対し不安に思うことは、「中心地域と周辺地域で格差が生じる」が62.5%で最も多く、次いで「行政区域が広くなり、行き届いたサービスが受けられなくなる」、「合併後の役所（役場）が遠くなり、不便になる」の順となっております。以下、表・グラフのとおりでございます。

それから2番目に“市町村別にみた富山地域の合併に対し不安に思うこと”でございまして、それぞれ上位から3つずつ載せております。特に、富山市以外の町村では「中心地域と周辺地域で格差が生じる」ということを不安とする回答が多いのに対しまして、富山市では「行政区域が広くなり、行き届いたサービスが受けられなくなる」ということが最も多くなっております。

続きまして43頁が、“年齢階層別にみた富山地域の合併に対し不安に思うこと”でございまして、これも上位3つずつ載せております。各年代別に載っております。

続きまして44頁の、“自由回答集計結果”でございまして。問10の自由回答には、「自慢できるもの」、「好きな場所」としまして合計1,894件、人数では1,264名の方から記入をいただいております。多くて2つという

ことになっておりますので、2つまでは選んでおりませんが、多くなっております。

多くの答えでは、「豊かな自然」が圧倒的に多く303件、100件以上の多いところを申しますと、「立山連峰」、「川」。「川」につきましては、それぞれの川を書いておられますので、合わせますと165件、そして「温泉」116件。ここでは牛岳温泉に限定されていないものを載せております。「牛岳」につきましては、スキー場も含んで81件と載せております。「おわら風の盆」が159件でございます。あとは以上書いてあります通りでございます。

問11の自由回答でございますが、これは全く自由回答ということでございまして、1,043件の記入がございました。記入されたのはほとんど一緒の人数でありまして1,040人でございます。そして回答につきましては、以下の8つの項目分野に分けております。「市町村合併に関する意見」576件から順に、「都市整備に関する意見」「産業振興に関する意見」「教育・生涯学習に関する意見」「福祉・医療・保健に関する意見」「自然・環境に関する意見」「行財政改革に関する意見」「議会・議員に関する意見」の8つに分けさせていただいております。

あとはご覧のとおりでございますが、若干わかりにくいところの説明をさせていただきます。46頁に入りますが、(4)教育・生涯学習に関する意見というところで、①教育改革、教育環境の充実ということで、一言で載せておりますが、意見はいろいろな意見がございまして、全体的には、「社会参加」とか「自由なもの」の見方ができる人物づくり、「個性や才能を伸ばす教育体制」、「自然に触れる機会を多く持つ」、「地域格差がなく交流が行われる環境」などがひとまとめに書いてございますので、ちょっとわかりにくいと思いますが、それ以外につきましては、それぞれ載せております説明のような形でございます。

それから最後の、(8)議会・議員に関する意見というところで、①地域格差のない議員の選出と書いてございますが、特に人口が少ないということで、そういう町村からも議員が選出できるようにということが12件でございまして、その他が多くありますのは、反対の意見も含めていっぱい書いてございますので、件数は多くなっておりますが、ひとつのまとまった評価というところでは、その他ということにさせていただきます。

もう一つ、順不同で申し訳ございませんが、(4)の教育・生涯学習に関する意見の②でございます。学校統廃合と書いてございますが、なるべくしないで欲しいという意味でございます。学校区の見直しは、選別できるようにという見直しでございます。以上説明を終わらせていただきます。

宮口委員長

住民アンケートの調査結果を説明していただきましたけれども、いかがでしょうか。ご質問、あるいはこういう点について特に考えるべきではないかというようなご意見がございましたら、お願いしたいと思います。各市町村の特色、違いをかなり反映して、要望したい事項や、「満足」「不満度」等々、というものが微妙に違っていることがよく分かりました。これは今から進めていく建設計画の策定の方付けにいろんな点で反映したり、注意を払ったりする重要な材料になるんだと思いますけれども、この時点で何かご確認いただくようなことはございませんでしょうか？ 特に無い様でしたら、またご指摘・ご確認いただく機会はあると思いますので、とりあえず先へ進ませていただければよろしいでしょうか。それではまた随時ご質問いただくということで、2番目の議事、「新市建設計画（序論～新市の建設の基本方針）素案について」事務局の方からまたご説明をいただきたいと思います。それではよろしくどうぞ。

事務局

お手元に、新市建設計画（素案）ということで配布しております資料に基づきまして、ご説明いたしたいと思っております。新市建設策定方針につきましては、7月31日の協議会で承認をいただいたところでございます。新市建設計画の策定につきましては、目次を見ていただきたいと思います。新市建設計画で告示しましたとおり、「序論」から始まりまして、「新市の概況」、「主要指標の見通し」、「新市の建設の基本方針」、「新市の主要施策」、それから「公共的施設の統合整備」「財政計画」の7つの構成で策定することで、作業いただいているところでございます。今回、ご提案いたします素案につきましては、新市建設計画の策定方針の「序論」から「新市の建設の基本方針」までの部分、一般的には将来構想といわれるものでございますが、それについての素案でございます。この新市の将来構想の素案でございますが、合併の背景として、国・県の動

向、それから構成市町村の現状、それから住民アンケート調査によります住民ニーズの把握分析と対策等について整理いたしまして、そのことを踏まえながら、合併した場合どのようなまちづくりをしていくのか、既存のいろんな市町村の計画、それから県の計画いろいろございますが、それらを考慮しながら、新たな視点から新市としての将来像や基本方針等について記載いたしているところでございます。今後この素案を基にいたしまして、策定委員会でご審議いただきながら、とりまとめしてまいりたいと考えております。それでは内容について簡単にご説明いたしたいと思います。

まず1頁、「第1章 序論」でございますが、“合併の必要性”と“新市建設計画の概要”で構成いたしております。合併の必要性につきましては、構成市町村は歴史的につながりが深く、生活経済圏が一体化した地域であり、また、多くの分野で広域行政に取り組んできておりますが、今後、少子・高齢化、あるいは地方分権の進展に即した対応が必要となってきたと見ております。このことを踏まえまして、合併の必要につきましては次の4点の視点から整理いたしております。

1点目でございますが、日常生活圏の拡大と広域行政への対応といたしまして、広域的、専門的な課題に対処するため、一体的、計画的、総合的なまちづくりの展開が必要であるということ。

それから2点目といたしまして、地方分権による自治能力の向上と住民ニーズの多様化、高度化への対応、それから2頁になりますが、3点目として、少子・高齢社会への対応。それから4点目といたしましては、厳しい財政状況に対する一層の効率的な行財政運営の面から整理いたしているところでございます。

3頁目でございますが、“新市建設計画の概要”につきましては、先にご承認いただきました、新市建設計画策定方針に添って計画立てるということ、ここに記載をいたしております。

続きまして、4頁、「第2章 新市の概況」ですが、この中身につきましては“新市の概況”、それから“広域的な位置付け”“新市を取巻く社会潮流”、それから“地域の特性と課題”で構成いたしております。

4頁をお願いしたいと思います。新市の概況では、富山地域の状況を共通認識していただくものとして、まず（1）位置・面積、それから（2）地勢では、合併により新市の面積が国内最大級になるということ。それから5頁になりますが、（1）人口・世帯、それから（2）通勤・通学の状況ということで整理しておりますが、人口では、平成12年の国勢調査で約42万1,000人となっております。それから、世帯数が約14万5,800世帯であるということでございます。また今後、少子・高齢化が進行するということも記載いたしております。

それから6頁目になりますが、通勤・通学の状況であります。新市内常住就業者のうち91%の方が新市内へ通勤、又、通学者についても91%の方が新市内に通学されているということになります。

続きまして7頁をお願いしたいと思います。土地利用及び生活基盤でございますが、土地利用につきましては、新市の総面積の約7割が森林でございます。その森林の33%が国有林でございます。次いで農用地が11.3%、宅地が6.2%ということになります。それから次に、生活環境施設の整備状況をここにあげております。道路の状況、あるいは水道普及率、下水道等の整備率をここに載せております。

続きまして8頁でございますが、公共施設等につきましては、保育所以下体育施設まで、新市の公共施設はこの数となっております。比較的整備が進んだ地域であろうと考えております。

次に9頁になりますが、産業でございます。まず就業構造でございますが、新市の就業者数は、平成12年の国勢調査で220,143人となっております。これは富山県の36.8%を占めております。割合につきましては、第3次産業の割合が非常に大きなウェイトを占めているということがここに示しております。

それから農林業につきましては、農家数、農業生産、それから林業の林家数が、いずれも減少傾向にあるということがこのグラフを見てお分かりかと思っております。

続きまして10頁をお願いしたいと思います。工業でございますが、新市の平成13年の製造業の事業所数は1,060ヶ所ございまして、製造品出荷額は10,168億円となっております。いずれも平成10年と比較して減少傾向にありまして、厳しい経営状況にあるということがお分かりかと思っております。

続きまして商業でございますが、商業につきましては、卸売業は商店数、年間商品販売数とも、減少いたしております。それから小売業につきましては、商店数が減少しておりまして、年間商品販売額がほぼ横ばいでございます。横ばいであるという、その原因でございますが、これは大型商業施設が立地したということで、それらについてある程度カバーされておりますが、地域の商店街については厳しい状況が続いているという状況でございます。

次に11頁でございますが、観光につきましては、新市には自然観光資源、あるいは伝統文化、祭りイベント等、いろいろ観光資源がございますが、主なものをここにあげております。中身につきましては、自然観光資源、あるいは伝統文化、祭り・イベントということで、ここで整理をさせていただいております。

次に12頁をお願いしたいと思います。財政でございますが、平成13年度普通会計決算によると、財政力指数は、構成市町村全体で0.715となります。経常収支につきましては78.8%、それから起債制限比率は9.8%、公債費負担比率は17.9%ということでございまして、公債費負担比率につきましては、15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされていますので、ちょうど中間程度になるかと思っております。

財政状況の中身を簡単に言いますと、地方債の現在高は住民1人になおしますと約47万円程度、それから積立金につきましては、住民1人あたり約5万円程度になると思います。

続きまして13頁をお願いしたいと思います。“広域的な位置付け”として、富山県民新世紀計画及び新世紀富山地区広域市町村圏計画がございますが、富山地域につきましては、県都として県勢発展をリードし、高次都市機能が集積する北陸の中核都市としての役割が期待されているところでございます。中身については省略させていただきます。

続きまして14頁をお願いしたいと思います。新市を取巻く社会潮流として、まず14頁では本格的な少子・高齢社会の到来によりまして、今後、子育て支援や社会福祉施設の基盤整備が求められております。

また、環境問題につきましては、住民の生活環境や自然環境の保全のため、地域の特性に応じた環境対策の推進が求められているところでございます。

それから、高度情報化の進展につきましては、住民に行政サービス、それから社会情報の提供が容易に受けられるように、地域情報化の推進が求められております。

次に、価値観や生活様式の多様化によりまして、社会や行政に対する要望が高まっておりまして、特に男女共同参画社会の推進、自己実現の場の提供等への支援が求められております。

それから15頁になります。経済社会のグローバル・ボーダレス化になりますが、今後交通機関の拡大により、さらに広域化が予想されることから、地域独自の魅力を持つこと、それから産業構造の転換、人材育成が求められています。

それから、住民参画意識の高まりでは、福祉をはじめとしたさまざまなボランティア活動や地域の自主的な活動への支援や独自のまちづくりの推進が求められております。

地方分権の進展では、地方自治体において自主性・自立性が拡大することから、これまで以上に住民ニーズの把握を行い、地域の特性に応じたまちづくりが期待されているほか、行財政の効率化、独自性の発揮が求められているところでございます。これらの社会背景を的確に捉えて、社会潮流について認識することが必要と考えております。

続きまして16頁～17頁、地域の特性と課題では、各市町村の総合計画がございますが、これらを整理いたしますと、いずれも人づくり、それから自然への配慮、交流と連携といった視点が共通していることがうかがえると思います。この中身については説明を省略させていただきたいと思います。

続きまして18頁でございますが、これは先ほど説明いたしましたとおりでございますが、住民アンケート調査結果としまして、主な調査5項目の分析結果を、地域全体、それから市町村別、年齢階層別に分けて記載しております。このアンケート調査結果につきましては、新市建設計画を策定する際の参考といたしております。説明につきましては先ほど言いましたので省略させていただきたいと思います。

続きまして23頁をお願いしたいと思います。これまでの内容から、まちづくりの主要課題として6項目に分けて整理いたしております。

まず、第1点目といたしまして、本格的な少子・高齢社会への対応として、新市では少子・高齢化が急速に進行しております。住民アンケート調査では「高齢者・障害者・児童の福祉対策」や「保健・医療体制」の充実を望む回答が多くなっております。

また、少子・高齢化社会によりまして人口の減少、それから社会活力の低下、社会保障制度の維持が全体の問題ともなっております。特に、過疎地域を抱える地域におきましては、集落をどのように維持し、一人暮らしの高齢者をいかに支援するかといった切実な問題がございます。また、都市部におきましても児童数の減少に対して、どのように学校の統廃合を行っていくかというような問題が発生しております。これらの問題にいかに対応していくかが課題になると思います。

それから2番目の生活環境の充実ということでございますが、住民アンケート調査では、「道路の整備状況・バス・鉄道など交通の便」への不満度が高くなっておりまして、今後まちづくりに望むことでは、「雪対策への取組み」が、最も多くなってきております。

また、合併による「中心地域と周辺地域で格差が生じる」、「行政区域が広くなり、行き届いたサービスが受けられなくなる」、「合併後の役所（役場）が遠くなり、不便になる」等の回答が多くなっております。

新市では、今後広域的な交通の利便性が高まることが予想されておりますが、合併することによりまして、行政区域が拡大することから中心地域と周辺地域における地域の実状に応じた生活環境の整備をいかに行っていくかということが問題になります。

また、行政サービスの提供において、距離的障害を克服するための情報通信技術等をいかに活用していくかという検討も必要になるかと思っております。

それから3番目の、地域資源の保全と環境対策でございますが、これも住民アンケート調査の生活環境の満足度では、「緑や水などの自然環境の保護」が最も多く、将来のイメージでも、「緑豊かな自然や川、海などの環境を大切にすまち」が最も多くなっております。

新市には、山、川、海など豊かな自然、あるいは多くの伝統文化、観光資源がございますが、これらの地域資源を新市共有の資産として、保全・活用して、自然や伝統と共生する産業を育成するなどして、次世代にこれをいかにして継承していくかということが課題になるかと思っております。

続きまして、24頁をお願いしたいと思います。既成産業の再生と新たな産業の創造でございますが、農林漁業の後継者問題や商工業による経営、経済状況が低迷する中、いかにこれらの産業を再生するのか、またいかに新たな産業を創造し、地域に活力を取り戻すかが課題となります。

個性と創造力のある人づくりへの支援では、人々の価値観やライフスタイルの変化に対応した人づくりへの支援や、個性と創造力のある社会を形成していくうえで、地域の自然、伝統・文化をいかに活用して、住民が参加しやすい環境をつくるかが、課題となると思っております。

住民参画・連携・交流の促進では、これまで以上に地域の個性を大切にしながら、新市としての新しい個性を確立することが求められており、住民のまちづくりへの参画が重要となってきております。そのため新しい時代に対応した住民参画・連携・交流の促進が課題となると考えております。

続きまして25頁をお願いしたいと思います。「第3章 主要指標の見通し」でございます。第1点目は、まず人口でございますが、人口につきましては、コーホート要因法を用いて推計を行った結果、平成27年の新市の人口は411,000人となります。それを年齢別区分に分けたものが（2）の表でございます。

それから26頁になりますが、人口の見通しとして表（グラフ）で人口の推移を表しております。それから世帯数でございますが、平成27年の世帯数の見通しは、181,000世帯となります。

それから27頁をお願いしたいと思います。就業人口でございますが、今後、総人口の減少に伴いまして就業者数も減少が予測されますが、平成27年の就業人口の見通しは202,000人と推計いたしております。これは平成12年と比較して約16,000人減少するということが見込まれます。

続きまして28頁をお願いしたいと思います。「第4章 新市の建設の基本方針」でございますが、第1節の新市の基本理念でございます。新市のまちづくりを進める上でたえず念頭におくものとして、“共生する”、“交流する”、“創造する”の3つを、まちづくりの基本理念として設定いたしましたところでございます。

先ず“共生する”。これは、「にぎやかさと自然が調和するまち」ということでございますが、住民アンケートによる将来イメージの第1位は、「緑豊かな自然や川、海などの環境を大切にすまち」となっておりまして、近年、環境問題に対する住民意識が高揚する中、豊かな自然環境の重要性がますます高まってきております。新市が持ちます自然環境や景観は、これから都市が発展し、市民が健全で暮らしていくための基礎となる魅力的な資産だと思っております。

また新市のまちづくりにおきましては、広大な一つの流域という考え方が大きな要素となります。言い換えれば、川上と川下という両輪が一体となって機能することが必要と考えております。

したがって、新市においては、都市と自然が共生するまちづくりを推進していくことが、一つの基本理念といたしたいと思います。

次に29頁になりますが、“交流する”。これは「共にささえ、外に開かれたまち」ということでございます。新市が地域の特性を活かしながら、バランスよく発展していくためには、都市部と中山間地域が連携・交流

し、相互に認め合った上で、お互いを補っていくことが求められております。

さらに、新市で、高次都市機能を一層集積させ、活力と魅力のある都市として発展していくためには、県内はもとより環日本海地域の中核都市として、人・もの・情報の一層の交流促進を図っていくことが重要と考えております。

したがって、新市において「市民と行政」の協働並びに、「都市部と中山間地域」、それから「新市と富山県内外の都市」、さらには「新市と海外諸都市」など、様々な交流が活発なまちづくりを推進していくことを基本理念といたしたいと思っております。

30頁をお願いします。「創造する」でございますが、「みんなで創り出すまち」ということで、新市には、豊かな自然資源・景観がございます。

また、富山県の政治、経済の中核としての諸機能と、これを支える多種多様な資産がストックされ、持っております。

そして、地域のために活発に活用できる住民、それから住民組織、それから教育・文化団体、企業等があり、これらの資産を地域活性化や人づくり、まちづくりに活かす経験と知恵があります。

これらの資産を共有・継承することと共に、新しい活力と魅力を創造していくことが重要でございます。したがって、新市においては、様々な資産をみんなで共有・継承・発展させる創造のまちづくりを推進していくことを基本理念といたしたいと思っております。

31頁になりますが、新市の将来像でございます。富山地域の将来像は、基本理念を踏まえまして、キャッチフレーズといいますか、一言で言い表しますと、現在のところ仮に、次のように設定いたしているところでございます。

新市の将来像といたしまして「環境と創造の夢舞台～みんなでつくりささえあう環日本海交流拠点都市～」ということ、新市の将来像として、現在位置付けております。

この意味につきましては、貴重な資産を大切にするとともに、それらを活用して新たな活力と魅力を創造し、世界と交流する、環日本海の交流拠点としてのまちづくりが必要と考えております。

また、人材や知恵などの地域力を最大限に活かして、新市民の暮らしのあらゆる舞台で、地域一体となって連携し、21世紀に躍動することが望まれます。

そのため、「共生・交流・創造」のまちづくりを推進し、市民の夢や希望の実現を目指して、このキャッチフレーズ、「環境と創造の夢舞台～みんなでつくりささえあう環日本海交流拠点都市～」を将来像といたしております。

この将来像につきましては、現時点での将来像ということで、ご理解願いたいと思っております。

次に32頁になりますが、新市のまちづくりの基本方針ということで、6つの基本方針を設定いたしております。

1番目の基本方針でございますが、「地域の連携で支えあい、健やかに生きる健康福祉のまちづくり」ということで、【健康・福祉の充実】を、基本方針の1つとしております。

中身につきましては、思いやりと助け合いのある地域社会の育成、保健から医療、福祉までの総合的なサービスの連携と充実を図っていきたいと考えております。

また、安心して子供を生み育てることができる環境づくり、それからすべての子供が心身ともに健やかに育っていける環境づくりを推進していきます。そして、市民の健康増進にも努め、誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを推進したいと考えております。

それから、2番目の基本方針といたしまして、「暮らしを支える都市・生活基盤が充実したまちづくり」ということで、【生活環境の向上】を基本方針の1つとしております。

中身につきましては、北陸新幹線や富山高山連絡道路、それから富山外港の整備、また、富山空港の国際化などを推進するとともに、日常生活に密着した道路ネットワークの構築を図り、機能的な都市基盤が充実したまちづくりを推進したいと思っております。

また、ITを利用しやすい情報通信基盤整備、それから防災・安全施設を始めとする生活基盤整備を図るとともに、公共交通機関の利便性の向上を図り、人にやさしく、快適で安全なまちづくりを推進することを基本方針といたしております。

続きまして33頁でございます。3番目の基本方針といたしまして「豊かな自然を保全・活用するまちづく

り」ということで、【自然との共生】を基本方針の1つとしております。市民が豊かな自然と親しみ、ふれあい、共生を実感できるような環境形成、環境保全活動を行うとともに、循環型社会の構築をより一層目指したいと考えております。

それから、4番目の基本方針といたしまして、「新しい価値やしくみを創造するまちづくり」、これは【産業の振興】になりますが、従来の工業生産基盤の蓄積を活かしながら、新規の成長産業の創出と育成を目指し、新たな価値やしくみを創造するまちづくりを推進したいと思っております。

また、特色ある農林水産業をもつ地域においては、地域の条件に合った再編や新たな特産品の開発、あるいはブランドづくり、さらには商店街の活性化や観光拠点の整備充実を図っていきたくて考えております。

5番目の基本方針といたしまして、「新たな豊かさの発見と実現を可能にする教育・文化のまちづくり」ということで、【教育・文化の振興】でございます。明日を担う児童・情操と健全な心身の育成を目指して、地域の共有資産である自然・文化・歴史を体験する総合的学習を推進するとともに、情報通信技術を活用した学校教育環境の充実を推進したいと考えております。

また、生涯学習体制も充実させ、「創造力」と「生きがい」を育むまちづくりを推進していきたくて考えております。

6番目の基本方針といたしまして「市民が主体となって交流や連携を進めるまちづくり」では、【住民参画・連携・交流の促進】を基本方針といたします。様々な交流機会の創出を図るとともに、市民の積極的なまちづくりへの参加を促進するため環境づくりなど、連携・交流のまちづくりを推進したいと考えております。

また、情報公開の推進とともに、NPOやボランティア団体などの住民組織の育成・支援を図っていきたくて思います。

35頁ですが、これはこれまでの内容を整理したものの、体系図として表しております。見ていただければ結構かと思っております。

続きまして36頁をお願いしたいと思います。土地利用の方向性でございます。ここでは、これまで描いてきました富山地域の将来像を地域にあてはめ、連続性やつながりを表す軸と、ある一定の土地利用の広がりや表すゾーンによって、土地利用の方向性を概念的に表現して表しております。これにつきましては、39頁の新市の将来イメージ図と対比しながら、ご覧頂きたいと思っております。すみません。ちょっと前後いたしましたが、見比べながらお聞きください

まず、(1)の軸の考え方でございます。地域の大きな3つの外に向かって伸びる軸と、地域の中を1つにまとめる役割を果たす軸が考えられます。新市と外をつなぐ軸は、環日本海及び東南アジア諸国、それから3大都市圏、それに北陸地方の主要都市などとの広域的な交流・連携の役割を担うものでございます。

それから、地域内に広がる軸につきましては、新市内の交流・連携をつかさどり、地域を一体化するための重要な軸と考えております。まん中にあります図はこれを絵で示しております。

(2)土地利用の考え方でございますが、このゾーンを描く前提として、川上から川下に広がる雄大な自然や市街地によって構成される地域の中に、大きな4つの広がりを想定いたしております。

それは、「海辺」、「田園」、「川辺」、「森林」の4つでございまして、これらは地域の大切な資源でございます。すなわち、このような様々な資源を、保全・活用するため、「海辺」、「田園」、「川辺」、「森林」の4つの環境軸を想定し、その連続性に配慮したゾーンを設定いたしております。下の図はその考え方を示しております。

37頁をお願いいたします。軸整備による交流・連携の方針でございますが、これは39ページのイメージ図を見ていただくとおわかりかと思っております。これにつきましては、先ほど申しましたように、4つの軸がありますが、その中の水色の矢印ですが、1つ目は、国際交流の玄関口である富山空港、それから富山港を介して、新市と環日本海及び東南アジア諸国との交流・連携の促進のための、これが国際交流軸でございます。これを充実するためには、港湾機能の充実や、航空航路の新設などを行うことによる、軸の強化が必要と考えております。

それから、赤色の矢印でございますが、新市と3大都市圏を結ぶ、国土連携軸でございます。これにつきましては、北陸新幹線、それから北陸自動車道がその機能を担っております。北陸新幹線の全線整備の実現、新幹線富山駅の整備などを促進して、観光、それから広域物流など交流・連携の強化を図ってまいりたいということでございます。

それから、オレンジ色の矢印でございます。これは広域連携軸でございまして、新市と周辺の主要都市との連携を促進するためのものでございまして、国道8号線や41号線がその役割を担います。冬期交通確保等を含めて、整備充実が必要と考えております。

それから、桃色の枠で各市町村を結んでいる太い線がございまして、これが新市内の広域拠点及び生活拠点を結ぶものでございまして、新市内連携軸と呼んでおります。施設や資源の相互利用や地域間の円滑な交流とともに、新市としての一体化を促進するというので、この連携軸を設定いたしております。

次に、4つのゾーンについて説明をいたしたいと思っております。まず、上の方にございます桃色のエリアですが、これは市街地ゾーンでございまして、既成市街地を中心とした区域は市街地ゾーンとして、都市環境の整備を図ってまいりたいと思っております。市街地ゾーンでは、富山駅周辺の高次都市機能の再編・整備、市街地全体としての防災性の確保、それから優良な居住環境の整備、海辺環境の整備・保全が重要と考えております。

それから、黄色のエリアでございまして、これは神通川、常願寺川中流域を田園環境共生ゾーンとしています。これにつきましては、田園環境、あるいは景観の保全、観光農業の導入をはじめとした新しい形の農業の振興や、生活拠点を中心に生活環境の充実を進める必要がございまして、また、一方で開発に対処して、適正な土地利用を誘導するなどの、地域環境への配慮が必要なゾーンだと考えております。

それから、薄い緑のエリアがございまして、これは、良好な自然環境が多く残っている地域の南西部につきましては、自然環境共生ゾーンとして、人と自然との共生を目指し、自然を保全し自然とのふれあい、それから体験学習やアウトドア、レクリエーションの活動を振興するゾーンと位置付けております。

さらに、その横の薄い青色のエリアがございまして、これは、中部山岳国立公園や有峰県立自然公園周辺を自然環境保全ゾーンといたしまして、水源の涵養機能や優れた景観を積極的に保全し、後世に地域の大切な自然資源として残すというようなゾーンとして設定いたしております。

次に、地域を活性化するための4種類の拠点として、広域拠点、それから生活拠点、観光・レクリエーション拠点、産業拠点を設定いたしております。

まず、横にあります説明の中に、広域拠点、緑色で丸く枠になっているのがございまして、この広域拠点でございまして、日本海の中核都市としてふさわしい都市機能の充実や新市内の各生活拠点との連携を強化し、新市の中核地として、拠点性や新市全体の利便性の向上を図りたいと考えております。これは、現在の富山市中心部を広域拠点に位置付けております。

それから、2番目でございまして、オレンジの中に赤の丸枠がちょっとございまして、生活拠点でございまして、現在の各市町村の行政施設や商業施設が集中している地域は、これからも生活拠点として道路などの生活基盤の整備や魅力ある商店街づくり、それから既存施設の有効利用などを促進していく、そういう拠点として位置付けております。

それから、3番目といたしまして、赤の枠で囲ってありますが、これは観光・レクリエーション拠点でございまして、観光・レクリエーション拠点は、神通川や常願寺川沿いの水辺空間や、山辺の観光資源、それから伝統的な情緒を醸し出すまち並み景観など、地域の特色を持つ資源に磨きをかけ、新しい魅力を創り出すことなどにより、観光・レクリエーションの活性化の拠点といたしております。

最後になりますが、青色の丸い枠でございまして、これは産業拠点として位置付けております。これにつきましては、インターチェンジや空港、既存の工業団地や、団地の周辺については企業誘致、それから地域産業との連携、また雇用促進を図るための産業拠点として、地域活力を与えるための拠点といたしております。

以上でございまして、あと、40頁・40頁につきましては、新市建設計画の中の用語解説ということで載せておりますので、これについては省略させていただきます。以上でございまして。

宮口委員長

はい、どうもありがとうございました。新市建設計画の「第1章 序論」から「第4章 新市の建設の基本方針」というところまで、事務局から素案を提示していただきました。これにつきまして、ご意見・ご質問をいただきたいのですけれども、如何でしょうか。「第1章 序論」から「第3章 主要指標の見通し」というところまで、先ず、ご質問・ご意見を伺うことにさせていただきますでしょうか。そのあと、「第4章 新市の建設の基本方針」につきまして、改めて、また、ご意見を頂戴したいと思います。この建設計画につま

しては、このあと、更に第5章、6章、7章というふうに積み上げていく訳ですけれども、今回提示されました部分について、今回最終決定するというのではなくて、全体としての方向性をご承認いただきながら、細かい文言等につきましては、随時修正して積み重ねていくということで、如何かなと考えております。そういう訳で、あまり細かい文言をいちいち、今日、最終的にご検討いただく必要はないと思いますけれども、全体の考え方、あるいは重要な方向付け表現等々について、是非、ご意見をいただければと思います。例えば6頁を見ていただきますと、今回の合併をお考えいただいている市町村は、かなり一体となって、富山市あるいは婦中町、大沢野町、八尾町等々の中で、かなりの割合で、通勤・通学がおさまっているということがお分かりかと思えます。もちろん、富山市からも他の町村へ出てない訳ではございませんので。ただ、それが富山市の数の中では、5%を超えないのでここへ出てこない。私としましては、あまりにもこれは一方通行的な印象を与えますので、富山市から他町村へ流出している分は表にでもして、参考に載せておいたら如何かなと考えております。また、その辺りはご検討いただきたいと思います。それから、工業・商業については、最近の不況を反映して少し減少傾向にあるという状況も示されております。それでは特に無い様でしたら、第4章も含めてご意見を頂戴したいと思いますですが、いかがでしょうか？

島田委員

詳細にわたって調査・研究してあると思っております。大変、敬意を表したいと思っております。この新市の将来像について、ちょっと率直な意見を述べさせていただきます。地域全体、市町村別、年齢階層別ともに、「緑豊かな自然や川、海などの環境を大切にすまち」が50.4%ということであります。それを鑑みて、将来像というのは、大きなインパクトを将来の県都に与えますので、その中で、新市の将来像として「環境と創造の夢舞台」というキャッチフレーズが出ましたが、大変すばらしいと思います。と申しますのも、これをよく考えてみますと、地方分権の将来像を表していると、こういうような気持ちになります。ですから、大変いいキャッチフレーズでないかなと、こう思っております。それと、7市町村が共通したビジョンを持って、10年、20年、30年と時間をかけて、この新都市の都市像を創って行くことが最も大切じゃないかなと思っております。今、土地利用の話がありましたが、21世紀は環境と観光の時代とも言われておりまして、今の土地利用の方向性の中で、4つありますね。「国際交流軸」、「国土連携軸」、それから「広域連携軸」、「新市内連携軸」ということではありますが、これからやはり、国内はもとより海外からの観光客の誘致も大切になってくると思っております。今、外国からは年間500万人ほど来ておりますが、それを1000万人ほどに増やす必要があります。日本へ行ったら、舞妓・富士山、それも結構ですが、日本へ行ったら、日本の富山に行きたい行ってみたいと、そういう都市づくりのためには、この都市像というものがやはり大切でなかろうかと思っております。それで、この「国際交流軸」と4番目の「新市内連携軸」の中で、サービスという点がありますが、このサービスには、医療のサービス、行政サービスといろいろありますけれども、是非、「ようこそ、富山へ」と、人の心とか人のやさしさ、親切さが伝わってくるような、こういうサービスがこれから求められるのではないかなと思っております。そういうことで、これからは、日本海交流軸の拠点ということでありますので、国際化をよく照らし合わせて、新都市の将来像、これを本当に大切に育てていく必要があるのではないかと率直に思った次第であります。

宮口委員長

はい、どうもありがとうございました。島田委員からは、環境と創造という言葉は非常に、特にこれから時間をかけて新しい市を創造していくということで、大変いいのではないかな、あるいはその観光ということに関連して、いわば「もてなしの心と体制」というものを創って行くというご指摘がありました。さらに申し上げますと、私自身は、この中にツーリズムという言葉はどこかで使っていただきたいと思っております。今、特に日本人がかつて団体で物見遊山方、団体で押しかけてドンチャン騒ぎをして、お金を使って何を見てきたか忘れたというような観光が結構あった訳ですけれども、そういうものに対するアンチテーゼといえますか、大げさにいうと、人が人を見に来るといいますか、普通のお百姓さんが農業をしているのを見ていいなと思うとかですね、あるいは、川の中で人が釣りをしているのがいい、というようなセンスで、わざわざカタカナでツーリズムという言い方がかなり普及してきております。そういうようなセンスもどこかに込めたいと思います。それから、日本の産業が低迷しております時に、観光が大赤字といえますか、

日本から外国へ持ち出すお金の方がはるかに多いということは、政府も最近非常に気にしておりまして、観光カリスマとかですね、いろんなことを内閣府で働きかけておりますので、今の島田委員の意見は是非、またどこかで活かしていただきたいと思います。その他、いかがでしょうか。

清水委員

最後の、新市の将来イメージの図のことですけれども、これは、はっきりさせるためにこういうような書き方をしたのは分かるのですけれども、やはり、地形的には、4頁に書いてある各市町村の合体した図面、あるいは通勤区域で書いてある図面とこの図面を見ると、非常に異なった関係になる訳ですね。特に大山町は全く自然環境だけかと、こういう感じに捉えかねんようなことになるから、もっと自然と都市部が一体感を持つような、表現の仕方ができないかという思いが1つ。別にこれは分かりやすく書いてある訳ですから、これでどうのこうのという訳ではないけれども、できればそういう中で表現した方が、都市と自然との一体感というような形が表現できるんじゃないかと。

もう1つは、田園環境保全・活性化軸というような書き方でいっておりますし、次にも森林環境、あるいは自然環境保全ゾーンに分かれておりますけれども、この中で、具体的には中山間地域をどう表現していくかという問題があるかと思います。一番心配しているのは、わが町でもそうですけれども、中山間地域が、いわゆる、新しい市になったら見捨てられてしまうんじゃないかというような危惧を抱いているのが、非常に意見として出てきますから、この際、新市の将来像の中に中山間地域という文言をどこかで明確に入れていただいた方がいいんじゃないかと、そういう思いであります。

宮口委員長

はい、どうもありがとうございました。この大山町と書いてあるところが、自然環境保全ゾーンに偏っているようですね。事務局、今の質問に対してお答えください。

事務局

このイメージにつきましては、場所的なものではなくて、概念的なイメージ図ということでご理解いただきたいのですが。

宮口委員長

はい、ここの線が大山町で区切れているように見えるのも、大山町の印象が悪いことは悪いと思います。

事務局

あくまでも、イメージ図といいますか、例えば、ここにそれぞれ市町村名が書いてありますけれども、この場所、当然そこら辺りなのですが、大山町はこの青いところが大山町と捉えられますけれども、そうではないということを。先ほど申し上げました新市内連携軸のところの大山町のところに、生活拠点があります。全体としての概念図でありますので、これが道だとか、これがどうだとかと特定しているというものではない訳です。ただ、全体として、イメージとしてこういった形かなということを記載しております。

宮口委員長

はい。今の中山間地域という問題ですけれども、これは、合併を議論している訳ですから、大山町は中山間地域の町だと、富山市は市街地のまちだというふうに考えるのではなくて、当然、新しい市は新しい資源として、随所の中山間地域も当然抱え込む訳ですけれども、それを単に劣った場所として理解するよりは、それは多様な資源を持つ場所なのだとすることを、私としては住民にご理解していただくような、そういう努力も必要ではないかと思っております。ですから、過疎地域は大変なことからこういうふうにやりますよということを頭から強調するよりは、いろんな多様な地域を抱え込みながら、その特徴をどうやって活かしていくかというセンスの方がいいかなと、私のような立場からは思う訳ですけれども。首長さんとして、いろいろご心配もおありかと思います。その辺り、事務局の方で工夫ができるようならばお願いしたいと思います。私自身もこの図につきましては、何か全ての市町村の拠点を丸く閉じた線で括ってあって、かなり苦

労しているなという印象は持っているんですけども。その辺り、各首長さん、あるいは今日お集まりの委員さんが、地元でご説明に苦勞されることが無い様に、工夫ができればいいと思います。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

村上委員

山田村でございますけれども、今の新市建設計画の中の33頁の3に、豊かな自然を保全・活用するまちづくりと書いてございます。私の思いでございますけれども、自然との共生で神通峡、立山山麓をはじめとする豊かな自然環境となっているが、これは、新市を取り巻く豊かな自然環境というような表現でよいのではないかと考えているところでございます。神通峡、立山山麓というような固有名詞は必要なのかと考えているところでございます。もう1つは39頁の、新市の将来イメージ図でございますが、富山市、婦中町、山田村、八尾町へ伸びている県の中央部丘陵地帯を、いちおう何らかの共生ゾーンとして、色づけする必要があるだろうか。また、今まで富山中央部丘の夢構想として、昭和63年からこれまでにいろいろな事業を促進してきた、呉羽山丘陵地帯の位置付けが素案の中で表現されていないような気がするので、併せて検討いただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

宮口委員長

はい、どうもありがとうございました。事務局、お答えください。

事務局

1つ確認させていただきますが、自然環境共生ゾーンですか、この部分に山田村さんの方を位置付けるという考えでしょうか？

宮口委員長

婦中町の山間部、音川地区もそのような取扱いをすればいいのではないかということでしょうか？

事務局

今のご指摘の部分につきましては、ひとつのイメージ・考え方として、横に走っております、森林環境保全共生軸だという考え方で、横に広がっていますよというイメージです。この場所ということではなくて、そういうイメージで横のつながりの中で、そういった軸がありますよということで、ご理解いただければと思っております。

宮口委員長

ゾーンの的には、自然環境共生ゾーンのちょっと薄い緑を、婦中町の方まで広げれば、今のお話は理解できるのではないのでしょうか。それから、最初にご指摘があった神通峡、立山山麓というのを無理に入れなければいけないかということは、私も入れなくてもいいような気はしますね。

事務局

1つの概念図と作成したものであり、あまり具体的な表現を入れるのもどうかと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

宮口委員長

それだったら、全体の形を地図にしないで、もう少し図案化するという考え方もあるかもしれませんね。それではこのイメージ図につきましては、いくつか工夫しろということを今日の宿題にさせていただきますよう。

森 委員

まったく個人的な意見として申し上げますので、検討していただければ。まず32頁の【健康・福祉の充実】

の充実という文言の中に読んでいけばいいことですから、具体の記載がなくてもいいと思いますけれど、やはり考え方として、負担と給付の問題ということについて、なんらかの表現、そのことも含めて充実させると。あるいは、適正な在り方というようなことの表現が必要ではないかという点が1点。2番目の【生活環境の向上】のところでの、コミュニティバスの導入という表現、ここまで具体的に例示して書く必要があるのかと。つまり公共交通機関の維持・発展とか、そういうことが読み取ればそれでいいのではないかという気が。どうもこれに縛られてしまうような気がしますので。それから、3番目の【自然との共生】につきましては、もう少し、現在有している水と緑に象徴される豊かな自然というものを、将来にわたってしっかり維持していくというようなことが、文章表現としてあった方がいいなあという感じを思います。最後のところで循環型社会の構築と、こう表現していますから、それはそのとおりなんですけれども、現在ある豊かな財産というものを、しっかり未来に向けて承継していくんだというような表現をどこかに、文言にはこだわりますが、あったらいいと思います。4番目の観光拠点、最後のところの産業の部分について、商店街の活性化や観光拠点の整備充実ということに、先ほど先生の方からツーリズムというようにお話もごしましたが、もう1点できれば、たとえばコンベンションというような要素を、これからの産業の中で非常に大事だと思しますので、そういったことを盛り込んでいただけないかと。それから次に37頁の、今度はゾーンの中で、田園環境共生ゾーンの解説の文章の中、わざわざIC周辺の開発などというふうにいるのはどうかなと思いますので、田園環境共生ゾーンにおいては、優良農地を保全していくということと、同時に適正な土地利用というものを図っていくというような表現でいいのではないかと思います。以上何点か、拘らなくてもいいような文章表現のことですけれども、何か流れる精紳みみたいなものを読み取れるというような文章の方が望ましいと思いますので、ご一考を事務局でお願いいたします。

宮口委員長

はい、ありがとうございました。基本的に腹が据わっていないというご指摘かもしれませんが、非常にアンケートでも認識が高まっております豊かな自然というものを、まずしっかりと維持する。これは今の日本の中における富山県の存在価値にも、あるいは富山地域の存在価値にもなることですから、はっきり言えます。それから、コンベンション産業、大変大事な、今ありがたいご指摘ではないかと思います。工業がどうしても少し落ち目になっていく時に、人に来てもらってそこに経済が生まれるといえますか、その1つとして大変重要だと思います。よろしく、ご指摘について工夫をしていただきたいと思います。

高沢委員

15頁にございますけれども、こちらに合併の必要性ということで、「地方分権の進展」、これが1つの柱になっているかと思うのですが、これには言い尽くされているんですけれども、私にとりましては、もっと具体的に、地方行財政の三位一体の改革の中におきましての補助金を削除した上で、減額した補助金の一部を地方に税源移譲、教育給与など義務経費はということがでているんですけれども、これが何か具体的な数字なり、パーセンテージなり、何かそういう数字の上での、そういうものを示された方が、私たちには分かりいいのではなからうかと。漠然としておりますので、概要なり主旨は分かるんですけども、もっと分かりやすくなることができないかなと。ただ、単に地方分権という大枠の中でのお示しよりも、具体的なことをお聞かせいただけないかなと感じたんですけれども。

宮口委員長

どうも、ありがとうございました。いかがですか、事務局。国自体の方針がそう細かく決まっていなくてどうかという感じもしないでもないんですが。一応、お答えいただけますか。

事務局

今のご質問の件につきましては、委員長がおっしゃったとおり、国においてこの三位一体云々の議論がされておりまして、今後、中身につきましては流動的な面もあるものですから、具体的な数字、パーセントにつきましては、今のところ把握できない状況だと思しますので、そこらは少し状況をみさせていただくといえますか、このままこれは、謳わないという方向の方に、今現在せざるを得ないかなと思っております。

宮口委員長

委員各位が気になるようなデータ等につきましては、出せるものにつきましては補足資料として、この委員会の場に提示していただくことも、また工夫していただければどうかと思います。

事務局

今、ご指摘の部分ですけれども、新市の概要等々で謳っておりますそれぞれの数字に至った部分の、たとえば各市町村別のものであって、こちらの方で把握できる分については、別資料として準備はしたいと思っております。

宮口委員長

随時、また、次回からそういう工夫もして下さい。要するに建設計画というのは、1つの冊子として作り上げるものですので、それ以外に、細かい点で委員各位が気になる部分については、補足資料ということで、工夫いただければと思います。はい、野尻委員どうぞ。

野尻委員

ここにいただいております幹事会での意見というのですか、というのでも書いてあります通り、37頁の国土連携軸なんかですね、北陸と3大都市圏を結ぶと書いてありますから、あの、名古屋はいったいどこへいったんだという話になりますが、そういうこともありますので、先ほどの新市のイメージ図ですか、これは地図をそのまま置くのではなくて、もっと概念的なものに、私は当然していただいた方がいいんじゃないかと。そうすれば、どこが自然環境保全ゾーンだとか、どこが共生ゾーンだとかという、そういういちいち推測しなくても、そういうイメージでやるんだということで、いいんじゃないかと思っております。私、ちょっとへそ曲りなことを言いますが、35頁ですか、新市の将来像で環境と創造の夢舞台という、みんなで作りささえあう環日本海交流拠点都市ですね。パッとこれを最初に見た時に、すばらしいと思ったのですが、次のイメージでですね、夢舞台という言葉にどうも、私の連想が悪いのでしょうか。夢舞台というのは何か夢芝居だとか、いろいろ結びついていきまして、最高の演出で最高の虚飾の舞台芸術を創ってしまった、取り組んだと。それが終わってしまったら、何か祭りの後の寂しさっていう、そういうイメージを何か感じて。もう少ししっかりと土着した地道にみんなで創りあう、新しい市ということに、何か外れていくのではないかと。私のこれはへそ曲りな連想でございますから、そういうふうに受け止めた部分がありまして、ちょっと気になった訳です。私の連想がいいのか悪いのかは別として、そういう感覚も持ちましたということも参考にしていただきたいということでございます。

宮口委員長

はい、ありがとうございました。名古屋はないという話、もっともであります。で、名古屋は北陸自動車道の先に書くか、41号線の方の先に書くかなんていうのはまた、もめるかもしれませんが。うまく、イメージ図を概念図にするということで、新潟・金沢あるいは長野とですね、東京・大阪・名古屋というものを、うまく配置していただければと思います。それから、今の新市の将来像については、細入村の方から「都市と自然が共生する創造のまち」と、今、野尻委員がおっしゃったような提案がでております。私自身も、先程島田委員がおっしゃった環境と創造という点に対して共感するんですが、なんていいですか、せっかくのそれこそ大山町から山田村までの広がりを組み込んだ多様な自然環境の要素を持つまちとして、単なる環日本海交流拠点と言っちゃっていいのかなという気もしないではないというところがございます。これにつきましては、今日決定ということではなくて、今の意見を踏まえて、また事務局でさらに練っていただきたいと思います。夢舞台というのは、何か夢で終わってしまうんでないかというご心配があるということでございますので、今日はぜひぶん宿題がいっぱい出るようですけれども、これは実質的な中身に入った議論としては、これは止むを得ないかと思います。他にいかがでございましょうか。高沢委員どうぞ。

高沢委員

言葉尻かもしれないんですけれども、28頁の“共生する”というところに「にぎやかさと自然が調和する

まち」、これは「にぎわい」なんかどうでございましょうか？ 単なる言葉尻かもしれませんが。『にぎわいと自然が調和するまち』と、私はふと思ったんですけど。

宮口委員長

その方が上品のように思います。具体的な提案でございますので、異論がおりかどうか、伺っておきたいと思います。ご異論が無い様ですので、これは「にぎわい」ということに替えておいていただければと思います。どうもありがとうございました。あと、私の方では32頁に、先ほど森委員は、32頁の1番の健やかに生きるというところで、負担と給付等々の問題も触れておけとおっしゃったんですが、この中で、安心して子供を産み育てることができる環境づくりというのが、やはり非常に大事で、これをもう少し強調できないかなというふうに思いますので、また、工夫できたらお願いしたいなと思います。豊かな自然を持ち、日本の中でもある程度経済力を持ち、保ち続けてきたこの富山地域というところで、子供の数が他よりも少ないというのは、やはり、あまりにも問題だと思います。他に指摘は？

林 委員

新市の将来像のところですけど、「環境と創造の夢舞台」ということで、私もいいなというふうに思っていたんですけども、少しだけちょっと引っかかっていまして、創造の夢舞台は分からないでもないんですけども、環境の夢舞台ということになると、意味合いでは前後関係を読んでいますと、共生だとか調整、保全というようなことをおっしゃろうというふうに感じますので、本当に環境という言葉が適切なのかどうかは、若干疑問を持っております。あともう1点、新市の将来イメージ図に関しては、先程の通りでよろしいと思うんですけども、36頁の北陸の主要都市という表現が隣接の県のことをおっしゃっているのかなというふうに思いますけれども、その辺りをご一考いただければと思っております。以上です。

宮口委員長

36頁の軸整備の考え方の北陸の主要都市という表現に問題があるということですか。

林 委員

広域的な交流・連携という39頁の、多分この図面から事務局の考えを察するに、観光あるいは交通、道路整備等々のつながりの中でということで、たとえば金沢、長野あるいは高山というふうに出てきていると考えておりますので、そういうことかなと理解しました。

宮口委員長

北陸のというのはちょっと誤解があるのではないかとのご指摘ですね。はい、ありがとうございました。いかがでしょうか。かなりご意見が出て、この委員会、一応また来月にも予定されているように先程伺いましたので、少し事務局もラッシュでがんばっていただくということで、何とか次回また、宿題にお答えいただきたいと思います。そうしましたら、今日のところは、今回の素案につきましては、厳密な意味では決定していないということですね。一部に問題点の指摘があつて、それから修正の提案があつて、それについて事務局をお願いをしたということで、よろしゅうございますね。それでは9月の委員会で、本日の宿題という分につきましては、できるだけ具体的な、厳密な決定じゃなくても、大まかな方向としては承認していくというような形で進めさせていただきたいと思います。何か最後にご意見ございましたらお願いしたいと思います。よろしゅうございましょうか。はい、それじゃ、具体的な議論をしました第2回目の新市建設計画につきましては、いろいろ活発なご意見をいただきましてありがとうございました。事務局は大変でしょうけれども、また、これは大変大きな創造を伴う作業でもありますので、がんばっていただきたいと思います。

事務局

はい、どうもありがとうございました。今日いただきましたいろんなご意見等々につきましては、このあと事務局の方でいろいろと詰めさせていただきたいと思っておりますし、この後の策定委員会の中でもいろいろと、またご協力いただければというふうに思っています。一応、最終的には全部固まった段階で、協議会で承認

を得るという形をとっておりますので、今のこの状況につきまして、今月の8月28日の協議会の方へ、一応報告という形で提出させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。
それではこれをもちまして第2回の富山地域合併協議会の市町村建設計画策定委員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。